

各 駅 停 車

福祉と障がいのある方を理解するための情報紙

社会福祉法人 豊田市福祉事業団
No.32 2010. 3. 10 (季刊)

肢体不自由児通園施設

たんぽぽ

たんぽぽは、脳性まひやダウン症など手足や身体の動きに不自由さがあったり運動発達がゆっくりだったりする、0歳から就学前のお子さんが親子で一緒に通う施設です。

(豊田市西山町2-19 こども発達センター内 Tel.0565-32-8982)

紹介します！

たんぽぽ外来療育グループ「わくわく」

生まれつき身体に不自由さのあるお子さんにとって、できるだけ早い時期から支援することはその後の運動面や精神面の成長発達を促すために、とても大きな意味があります。豊田市こども発達センターでは、このような早い時期からの支援を行うため、「わくわく」というグループでの活動を行っています。

このわくわくは、

- ①主にたんぽぽ入園前の乳幼児
 - ②脳性まひやダウン症など運動面に不自由さや遅れがある
 - ③体調が整いにくく、なかなか毎日通えない
- などのお子さんが、ご家族と一緒に遊ぶグループです。



日 時：月2回（第1・第3水曜日10:00～12:00）

場 所：豊田市こども発達センター内なかよしルーム

定 員：ありません

参 加 費：無料

内 容：リズム遊び、ふれあい遊びなどの運動発達を促す遊び
たんぽぽ通園児のお母さんからの話など

スタッフ：たんぽぽ施設長、たんぽぽ主任、支援員、臨床心理士
計4名

「こんにちは、わくわくへお誘いの電話なのですが・・・」と、電話をしているたんぽぽ主任。「電話をありがとうございます」、お母さんからの快いご返事。わくわくとお母さんとの出会いの瞬間です。

これまで、病気がちで友だちと一緒に遊ぶ機会が少なかったお子さんたち。なかなか外に一步を踏み出す勇気を持てなかったお母さんたち。わくわくは、障がいのあるお子さんへの支援とご家族への支援の、両面からサポートしています。心安らぐ“オアシス”を目指して日々取り組んでいます。

「子育てに、ほのかな自信をもつ」ためのスタートラインでもあるわくわく。今日もいろいろな思いをもってみなさんがやってきます。素敵な出会いができるように、スタッフ全員一人ひとりの思いをていねいに受け止めていきたいと思っています。

窓

豊田市こども発達センターでは、身体の不自由なお子さんの乳幼児支援という視点から、わくわくでの活動を行っています。同時に、出生直後から医療面で深いかかわりのあるトヨタ記念病院のNICU(新生児集中治療室)との連携をとっています。NICUの医師・看護師などスタッフの方々と、発達センターの医師・たんぽぽ職員などで、手を取り合いながら障がいのあるお子さんとそのご家族への支援を行うことを目的に年2回の話し合いを行っています。そのため、NICU退院後はスムーズに発達センターを利用いただけるようになりました。また、NICU → 発達センター → わくわく → たんぽぽ → こども園・幼稚園・学校と、出生から就学まで切れ目なくサポートができるシステムもできあがっています。

運動発達に障がいのあるお子さんの「こころ」と「からだ」の成長を願いながら、ご家族のみなさまへ「すみやかに」「適切に」「ていねいに」サポートができるように、これからも支援を続けていきたいと思っています。

トピックス



祝! 新成人



平成22年1月8日(金)に豊田市福祉事業団障がい者総合支援センター「新成人の祝い」が催されました。

今年度は2名の方が成人を迎えられました。

当日はとても天候に恵まれ、雲ひとつない青空の下、和やかに会を行うことができました。成人となられたお二人の振袖姿が華やかに会を彩っていました。



また、各施設から代表者による新成人の方々へのお祝いの出しものがありました。暖のガールズバンドによる歌のプレゼント、けやきワークスからはソーラン節の舞、第二ひまわりからはひまわりバンドによる楽器演奏でした。各施設で練習を積み重ねてきた様子が見られ、たいへん見ごたえがありました。

今年も暖かな雰囲気の中、2名の方が新しく社会人としての一步を踏み出されました。今後とも皆様のご支援をどうぞよろしくお願いいたします。